

水無月に

柴田康弘

降り続く

斜めの雨粒を受けとめる

竹林の千の葉のさやけさ

手探りでさがす

水中の会話の光り

(このもどかしさはいつまで……)

風でたわむ道を

日々のあしうらが

踏み固め

(海への疾走)

息のない虫たちの羽根が

とおくの鐘の音に共鳴する

すれ違ふ

野の

みどりの鈍化へ

やがて六月の記憶はかすみ

異国のような

雲が明るい